

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大砂土学校】

学力向上 アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	本校は、「全国学力・学習状況調査」や「さいたま市学習状況調査」の結果において、ほとんどの項目で平均値を上回っていることから、学びの基礎となる基礎学力が身に付いていることが分かる。しかし、国語「主題と述語の関係を理解する」、社会「2つの資料を比較しながら変化について読み取ることができる」の項目では課題が見られた。また、「自分の考えを相手に伝える」「自分の気持ちを上手に表現する」ことにも課題が見られる。そのため、系統性を意識した学習内容の工夫や各教科の学習において、「伝え合い」の活動を充実させていく必要がある。さらには、学校経営の柱として児童が進んで読書に取り組み機会が減少していることから読書活動の充実を掲げ取り組んでいる。
実施する学力向上策 【時期・頻度】	学校課題研究における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の推進と習熟度別など、個に応じたデジタルコンテンツの有効な活用方法を共有し、授業改善を図る。また、年3回の研究授業を週1、大砂土小授業モデルや「自分の考えが伝わるように表現すること」を意図した活字活動、模範を明確にして自分の考えを伝えるICT活用を授業の中に積極的に取り入れ、思考ツールを用いた授業実践を行う。読書活動に関しては、図書部を中心に、朝読書の充実や夏休みの貸し出し冊数を増やしたり、保護者向け図書館利用の期間を設定したりして、本に親しむ機会を増やしていく。さらに、指導主事を招聘したり、「学力向上カウンセリング学校研修」などで助言を受けたりし、本校の課題を把握しながら、授業改善を図る。 【通年・研究授業 年3回・朝読書 週1回・指導主事等の招聘 年3回・学力向上カウンセリング学校研修 年1回】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	
↓		
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	

- ① 学校全体での取組
- ② 単元テスト・定期テスト等の分析・活用
- ③ 中間評価を経た取組
- ④ 調査結果を活用した授業

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※)
↓	
学力向上策の 見直し	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)